

「教員免許状更新講習」

1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
40名	30名	30名	30 (福井21、滋賀3、京都1、石川3、愛知1、岐阜1) ※1日目23名・2日目12名・両日参加有

2. 事業内容（概要）

◆ねらい

- ・体験活動の意義や効果を理解するとともに、実際の自然体験活動を通じて安全に配慮した指導法を体得する。国立若狭湾青少年自然の家の立地・環境を生かした特徴的な体験活動を通しての講習を実施する。

◆期日・期間

2016年10月8日（土）～ 10月9日（日）

◆主催 国立大学法人福井大学

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立若狭湾青少年自然の家

◆参加者分析

- ・今年度は6府県から30名の参加を得ることができた。男女の割合も15名ずつとバランスもよい。利用団体の引率者の方の参加も2名あった。参加者の所属としては、小中高の現職教諭に加えて、幼稚園で勤務されている方や教育関係以外で働かれている方もいた。今回シーカヤックやスノーケリングに初挑戦という方もいたが、特に問題なく活動を進めることができた。

◆企画のポイント ◇プログラム

	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
10月8日（土）		受付	開講式	<b>【講義】</b> 「青少年期における自然体験活動の現代的意義1」 — 水難防止学習を視点に — グループごとに意見・実践 経験の交流 福井大学（教）准教授 稲垣良介 横浜市立都田小学校 主幹教諭 河合智樹		昼食・休憩	実習 「シーカヤック体験と学習指導に生かす体験活動Ⅰ」 若狭湾 企画指導専門職			評価試験	諸連絡 解散
10月9日（日）		受付	開講式	実習 「スノーケリング体験と学習指導に生かす体験活動Ⅱ」 若狭湾 企画指導専門職		昼食・休憩	講義 「青少年期における自然体験活動の現代的意義2」 —若者自立支援実践から捉え直す— グループごとに意見・実践 経験の交流 福井大学（教）准教授 稲垣良介 横浜市立都田小学校 主幹教諭 河合智樹 奈良佐保短期大学講師 杉山晋平			評価試験	閉講式 解散

## 【指導者養成事業】

◇講師	福井大学大学院教育学研究科 准教授	稲垣 良介 氏
	奈良佐保短期大学 講師	杉山 晋平 氏
	横浜市立都田小学校 主幹教諭	河合 智樹 氏
	国立若狭湾青少年自然の家 主任企画指導専門職	入矢 完
	企画指導専門職	木本 聡

### ◆運営のポイント

- ・シーカヤックやスノーケリング体験の中で、学級指導や学級経営につながる場面を取り上げて紹介することで、日々の学習活動の中にもそういった場面が多くあることに気づき、今後の学級経営や学習指導につながっていくように活動を進めた。
- ・体験活動では講義の中で取り上げられた活動の中に潜む危険にも触れ、活動そのものが安全に展開されることの重要性を伝えた。講義で取り上げられた内容を具体的に見える形で伝えることでより理解が深まると考えた。
- ・各講義の内容をグループで共有することでより深まるようにした。
- ・各学校での自然体験活動での運営者となることから、道具・資材の準備・後片付けの一切を含めての活動内容とした。

### ◆安全管理のポイント

- ・普段子どもたちが行う活動を忠実に再現し、常に安全管理者として心がけるべきことを意識しながら活動できるように支援すると共に、安全監視する人員を増やし周囲の状況や参加者の体調管理、天候の様子などをいち早く情報共有出来るように配列した。

## 3. アンケート結果

### (1) アンケート

参加者	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	96%	4%	0%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	96%	4%	6%	0%
この事業の運営はどうでしたか	90%	10%	0%	0%

4 満足 3 やや満足 2 やや不満 1 不満

### (2) 参加者の声

- ・美しい景色に日々の精神的な疲れが癒されました。
- ・実践活動は大切だと思うのでこれからもこういった企画があるとよい。
- ・普段経験できない内容でしたのでとても有意義で楽しんで受講することができました。

## 4. 成果と課題

### (1) 成果

- ・連携3年目であり、運営について、スムーズに行うことができた。今年度は昨年度に比べ、受講者が倍増した。チラシまたは、口コミの効果であるとともに、3連休に実施したことが大きかった。
- ・福井大学として、体験活動を取り入れたこのプログラムは特徴的であり、次年度以降も維持して行きたいとのこと。全体的に更新講習に参加者が減少している中で、大変ありがたいとのことであった。

### (2) 課題

- ・わくわく体験塾と重なるが、3連休の実施が良いと考える。運営にかかることについては福井大学が準備してくることが多いので、所の負担は少なく、2つの事業が重なっても無理はないと考える。